

No.189

坂東地域アグリ通信



←HPはこちらから

令和3年5月20日

坂東地域農業改良普及センター 発行

Tel : 0297-34-2134 Fax : 0297-34-3291

担い手の育成について

坂東地域では農業法人が多く存在し、特に雇用就農が多くなっています。教育機関も充実しており、普及センターと同じ敷地にある農業大学校園芸部や、地元の農業高校と連携して担い手の育成を進めています。また、地域の中核的な農家や農業法人において、研修の受け入れなども行っています。新規就農者に対しては、アグリセミナー（農業学園）をとおして農業の基礎的な知識の習得や、地域の仲間づくりを推進するほか、研修先の紹介や、資金の貸付など各種支援策の相談会を実施しています。管内には4つの農業後継者クラブがあり、普及センターでは、各クラブの栽培試験や食育活動などの取組を支援しています。

これから農業を始める方、始めて間もない方に対しては、普及センターでアグリセミナーを開講しています。今年度も土づくりや病害虫講座などの基礎的な講座を中心として、6月頃を目途に開講しますので、ぜひ参加ください。また、県では「いばらき農業アカデミー」を開講しています。こちらは、各分野の専門家を講師としてお招きし、より専門的な講座となっておりますので、こちらもぜひご活用ください。今年度のスケジュール等が決まりましたら改めてお知らせいたします。



坂東市4Hクラブが食育活動を行いました！

令和3年4月1日に「坂東市岩井4Hクラブ」と「坂東市猿島4Hクラブ」は合併し、「坂東市4Hクラブ」として生まれ変わりました。クラブの活動第一弾として、4月28日にさしま保育園児20名とトウモロコシの播種を行いました。

本活動は、元々旧坂東市猿島4Hクラブが食育活動の一環として行っていました。はじめに、イラストを見せながら作業の手順を示し、その



後、園児たちに種を配って作業を体験してもらいました。園児たちは夢中になって種まきをしている様子で、作業が終わった後も、「収穫が楽しみ！」「早く食べたい！」と、楽しそうな声が多く聞かれました。

普及センターでは、今後も後継者クラブの活動支援と食育活動を通じて、農業の魅力を発信していきます。



「需要に応じた米生産のために主食用米から飼料用米へ転換しましょう」

- ・主食用米の需要の減少、在庫量の増加から、令和3年度米価格の大幅な下落が予想されます。
- ・飼料用米への転換、主食用米を飼料用米として出荷するなど、稲作経営の安定に向けて協力お願いいたします。飼料用米に取り組むことで様々な助成を受けることができます。
- ・詳細は茨城県農業再生協議会公式HP (<https://www.ibaraki-suiden.jp/>) で確認できます。

引き続きイネ縞葉枯病防除のご協力をお願いします

・イネ縞葉枯病とは？

イネ縞葉枯病とは、病源となるウイルスを保毒したヒメトビウンカが稲を吸汁することによって感染・発病する病気で、発病したら治療できず、被害が大きい場合には減収します。生産者皆様の防除実施等により、近年発病株率は低下しています（図1）。引き続きイネ縞葉枯病防除を実施しましょう。

・今後の防除対策について（本田防除）

イネ縞葉枯病の被害を抑えるためには、ウイルスを保毒したヒメトビウンカの数減らすことが重要です。

近年、育苗箱施用剤を使用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用剤を使用しなかった水田等では、本田防除を実施しましょう。

本田防除の適期は、例年6月中下旬頃ですが、気候条件によって変動するため、病害虫防除所が5月末に発表する病害虫発生予報6月号を参考にしてください。育苗箱施用を実施し、さらに本田防除を行う場合には、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択しましょう。

※農薬を使用する際は、ラベルを見て、対象作物や希釈倍数、使用時期、使用回数をよく確認して使用しましょう。

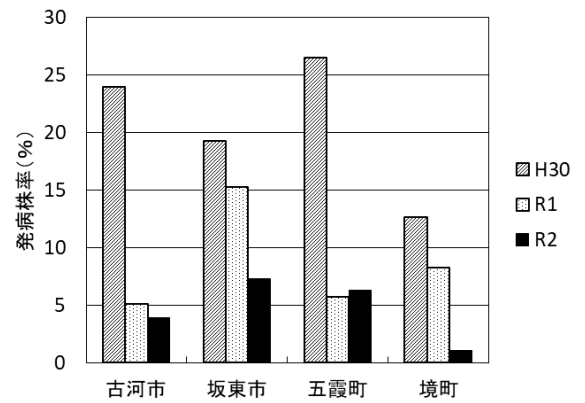


図1 管内市町におけるイネ縞葉枯病の発病株率

※調査圃場数

H30 古河市：7 坂東市：1 五霞町：5 境町：11
 R1 古河市：7 坂東市：1 五霞町：5 境町：11
 R2 古河市：5 坂東市：1 五霞町：5 境町：4

ネギハモグリバエの発生に注意しましょう！



今年も4月初旬からネギハモグリバエの発生が確認されています。2018年9月中旬に県内で初確認された「B系統」は、以下写真のような白化症状を呈するまで食害し、被害も甚大となります。被害が拡大する前の発生密度が低いうちに農薬散布を行いましょう。

1 被害の様子



> 幼虫食害痕

従来の「A系統」はすじ状に食害するのに対し、「B系統」は多数のすじ状食害痕が癒合して面的な被害となる。



> 食害痕内部の幼虫

表皮を剥離すると、内部に幼虫が確認される。



> 被害が甚大となったネギ圃場

面的な被害が進行すると、白化する。

2 ネギハモグリバエの特徴

> 幼虫

俵状の、いわゆるウジ虫の形をしている。幼虫が葉を食害する。



> 成虫

胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色であるのが特徴。



当管内では、9月中旬の秋冬ネギを中心に被害が目立ちます。圃場をよく観察し、防除対策に努めてください。対策方法等のご相談は、普及センターまでお問い合わせください。

6月 土壌診断実施日のお知らせ

6月9日（水）、23日（水）の2回の予定です

- ・個人の農家の方が対象です。
- ・受け付けは前日まで可能ですが**先着順となります**ので、お早めにお持ちください。電話等での**予約は行っておりません**。
- ・1回の診断で50点までの分析となります。超えた場合には次回の診断日となります。
- ・**1人あたり5点以内**の持ち込みでお願いします。

編集後記

新しい生活が始まって一か月がたち、仕事の内容や生活リズムにも慣れてきました。今後も体調に気を付けて頑張りたいです。最近、運動不足解消のためにウォーキングを始めました。（畑木）